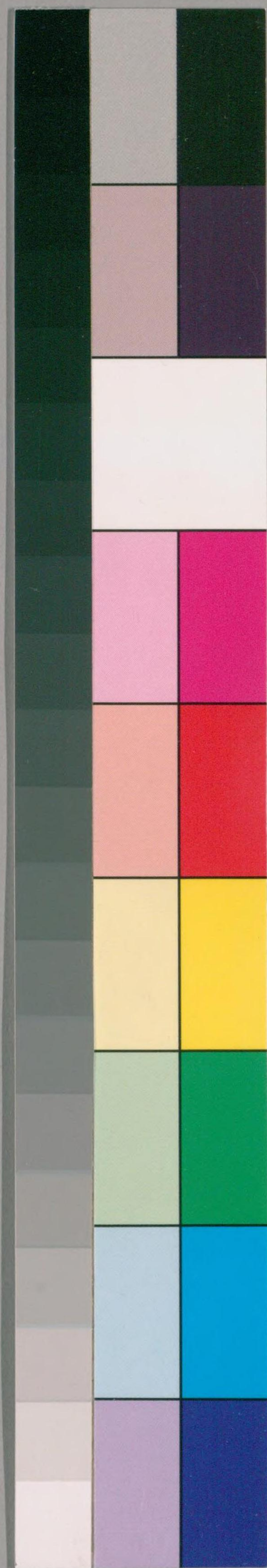


863
128

三日月集



国立国会図書館 タイトル『三日月集』 請求記号 863-128イ

ガラス使用

863-128



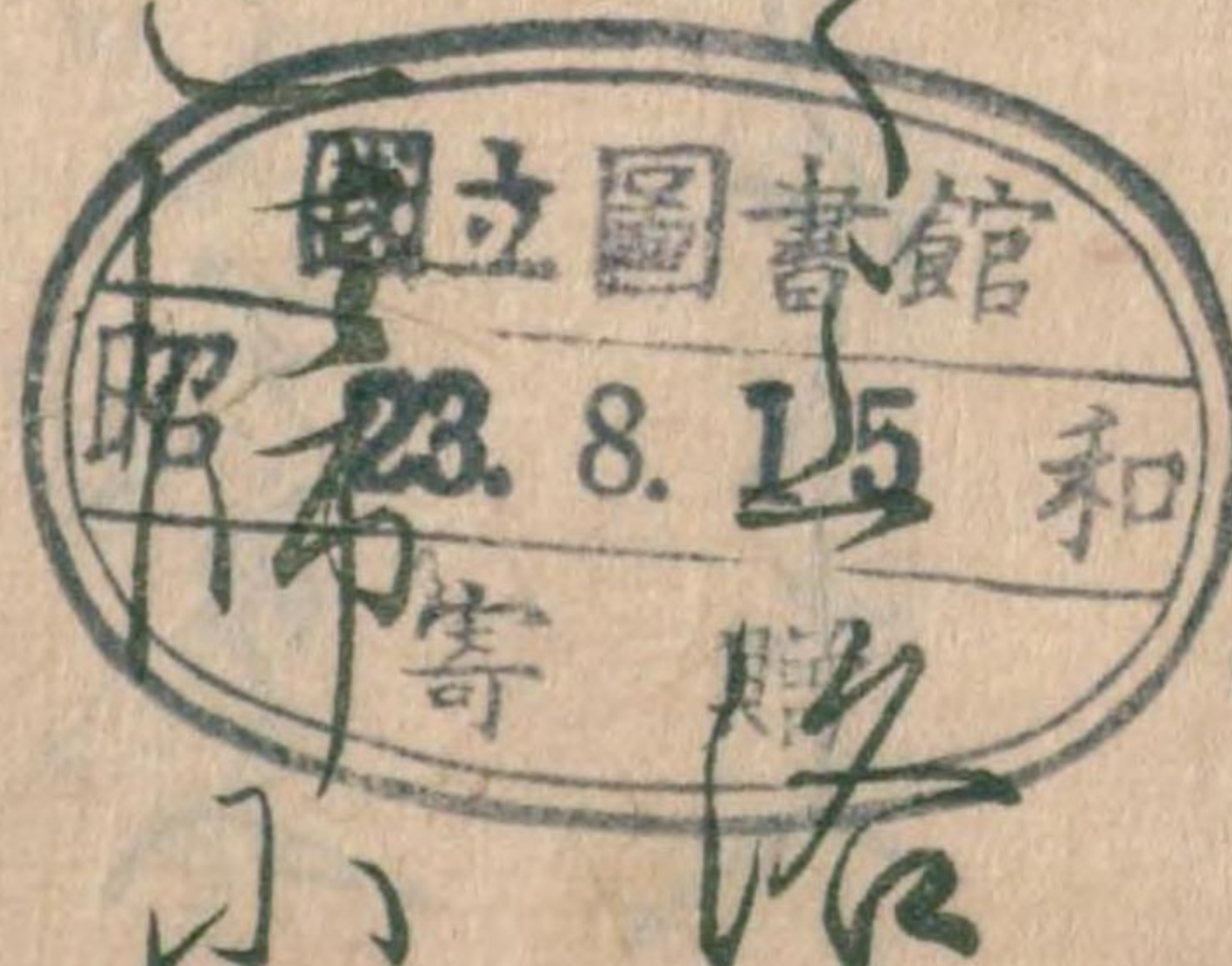
西上 人東國のわたりし公の

子載集勅撰あわと開く

けふ、さらさら水筆

とあひらわ勅撰のいともさるね

さらさらけや披露しては歌も

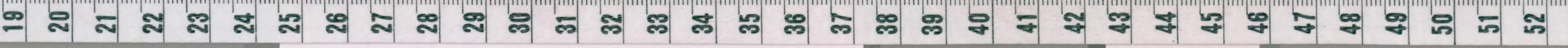


浅倉屋寄贈

〇序

おれく入きわよいにるる時立
決のいもいもいもいもいも
りまは見えけし梨ふさき養ふ
やしくいもいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいも

友白園かつて撰集かみ沙古
ありし十と書きし孫く、いもいもいも
云筆一仙墨家の者いもいも
えいもいもいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいも



はく二二を補ふ
人おきく東山小帰
心と紙

享和二年春二月

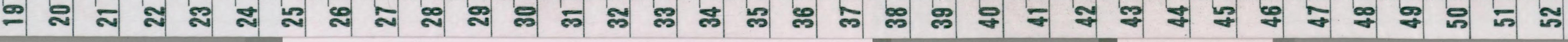
少海

三日月集

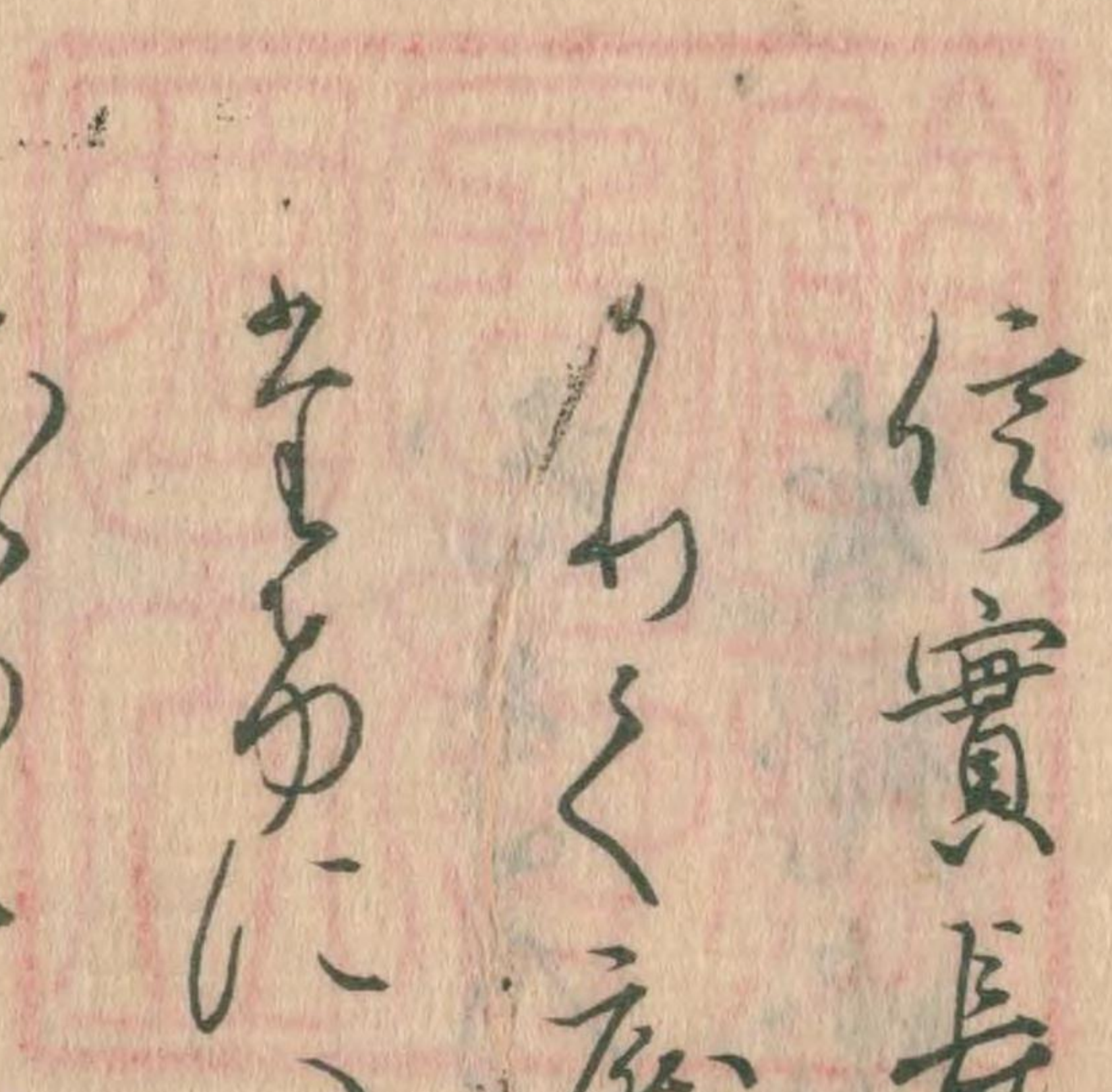


白岡撰

此寺の魁堂
有とあね多と人ふも似とこの月
かくある女お終寺わ亦五葉坊木見と
い巻ふた乃吟をゆく



三日月集
塙をきき染せりうまはし五十巻の
きりしるあしり尾破き本系はしり
物裡こらぬり人し母さるしす
うわぬえに演説の古歌うは法華の
信實長者をりある上人れ家人を
りわく廣ふと無し小堂佛坐おふ
きりしるあしり尾破き本系はしり
つらなほ垣か若風色うし羅をり



吟客乃面おふと毎ふ可るふを也

三日月集 十月二日無り

三日月ふくぬいよのよ二日月 士朗
四時ふくぬ夕ら徒乃雲 暁臺
まきけさ八道りく人のまわく 萬仵
霧の瓢をりしはふしや柴 岳輅
雲が戸の落くしり朝朝朗 岡毛



春の風やうにえゆれ若子 岱青
 落葉の枝乃 乾く不充の杖 他郎
 ぬらふ雪ころり 洛陽名春 沙漠
 雨の音ささく いろくふき 茶雷
 足利海の衣ほゆく 紀鳳
 う川も勢てを 羅城
 杜尚棠の 白圖
 き弱くと 風吹た 羅城

海土乃 繩を火小
 海土乃 繩を火小
 海土乃 繩を火小
 海土乃 繩を火小

躍崩し 長 演 朗
 萬 青
 萬 輅
 土筆 毛
 山 織 郎
 新 面 郎



あし波よする 荻草中
鳥か不情をひやに追ある
陣屋乃 花六おしりてある
大言司の名は 男連を答あはじ
のー引さきふ 筆名 古
男心あまの山 自由な
白園女くわいさく かく
あし波よする 荻草中

雷 鳳 汝 朗 城 萬 輅 毛

霧乃 船 不し 稀 山 寺
あし波よする 荻草中
乃乃 推坊ろと ちあを
くわいと 羽織きくわくよふ 枕
又るき 海との日あすわ ちあ
あし波よする 荻草中
風雅とろ ちあを ちあを

青 郎 朗 汝 鳳 園 漢

三日月

唐鉅の種とひはなひ事なる月 曉臺

鶴りやなる月ちふる川 他郎

鴨一羽横よきしちなる月 騏六

たぐちなる月のいんくはなる月 蝸角

百舌の屋よさひなる月 岱青

ちりりのまははなる月 闇毛

うら玉乃節なる入るなる月 大阜

ゆふ書の巻やちなる月 白罔

三日月は袖に入よなる月 朧如

三日月なる心なる月 木人

三日月若傾ふ形なる月 巨川

四のけやなる月 杵兄

かき ころり

家づのぬれぬもをう 初けり 来山

しとれりつ使里秋の枯葉は 宇洋

あつたや月の出る小池は 五道

しるるや宿を松風杉の色 霜居

おもひぬれしゆり初けり 一蕙

ふりころりおもひぬれしゆり初けり 馮月

かき ころり 鳥々南 斗入

ころり や小町うゑて幾せり 趙貞

風やあふるれりしとめ 也人

ころり や家と家の間の園 一之

かき ころり 枯尾花

いんちとるるれりしとめ 草人

風の尾をこりてかきて折るわ 伯先

世の文字得る。
不加

ひらぬもすけりよ木尾花 蘭水

りあし可程を思ふは憐しい 胡隼

枯安し此をわらぬき戸口 許風

冬月 水鳥

志はるのちよ禮やとほり冬月 李臺

あけの月あらく人乃木履か 巴水

あけぬく松をさわきの月 葛齋

登りあひさしるもあきの月 武昌

あけぬく松をさわきの月 啓甫

雲は木の葉さし形もさる 花叔

雪 みそき

はらゆきや舞ふ雪のうさる 春暁

あけぬの葉冷ゆふれかき 重厚

あけぬの葉冷ゆふれかき 左琴



此夕に前より

雪つじやうふらう人は竹の裏 蘭屋

人のほろいひきのうわの戸はれ 希言

掃あをを崩しをそりゆふの降 南陽

ゆきのなましこあらふてれふれい 庭甫

あつ里やうけあはちよふ集やまよ 梅間

こころや城やまらま乃大板 春蟻

落葉 氷

霜 冬 霧

戸口乃て落葉をゆく住居の風 サツマ 窓巴

ゆふ言や落葉はあつるものよは 大ッ 龜梁

小男麻乃やろおくまら落葉が 二本松 冥也

見るほよのあまわゆくきふふ 大蕪

山ものゝ急ききうぬ霜おれ 万岱

志てれ戸口のを昔ゆくいふる 長齊

雁乃啼ふうあはよききふる物 魯隱



冬木立 杜野 雜

おほやちとらうとんても冬木立

鸞岡

雪の身をたぐりしれりまきけり

青以

月もあつてもうかこころのあはれ

きを女

雪を佛の夕暮りよあわらわ

杜石

けくやあやせふまのかりをのめ

猪来

孔子盗跖一塵埃

飯くりぬ人さてもまじゆあましや

成美

寛政四十月八日無事

冬乃をれいつまをんくと静まわ

白圖

日いきつれくとおあふらうら

岱青

きく麻のむしれうとよひ越く

士朗

皮草ふれふら公おら

徐英

極あまこころのまねる月の人

大阜

海緒はつまきし草鞋若穂

昆明



うら坂の社よりお梅子以
戸板海より舟脊員末系
柳よりいまたつておいん使
硯の海のかろく折し雲
本とお浪走よりし風板友
様よりいそくふ破のゆふれ
竹杖乃よりし七つよきぬ月
酒くさよりれ蛇磨奈李
青 園 六 明 阜 英 朗 青

水乃湧より海よりゆる浅井也
鳥羽の干瀉をきよむる夏人
燕多し扇もつるく日れうつり
かきより急く系木よ花々咲
きさうた又多く此をかめちるわ
余より元ゆく 彩霞樓上
朗 六 明 阜 英 朗

紫旦

春

春くしハ春ハわたりし奥山家

冬花

神路のふゆの馬糞を掃ちまらば
まればあつとあつとの涙も生れ出さず

門香の留とま見ゆるを名に 十州

元日ハ嬉し二日ハおろしうし 文左

梅柳 春水

酔亦免やうはくくをこれ梅の花 計之

志のうさるるものにハけりす梅の花 フセシ 十邑

をいほし野ハ笑らうめのみ 兆雲

梅也月もろの間五尺けり也 岳路

春くし次梅ハ春くしわよ 百池

おろしや柳よまはし 吐牛

早波

春くし浮世も出ふ水 青阿

秀

尋花

夫

うらひすや遊学此なる閑もあし 桂五

尋の庭ぬらう折わし畠う風 巢兆

尋や人のうよ世をさるるなる 雄淵

うらむをこれとる時らうけ焚む 北鳳

尋乃啼おんもわねれうせ 五雄

うらむはあはらうくすむ折る 琴波

遠州

けふ乃をえいひそのふんてゆをぬ 柳莊

月と日も花れ中るわう一燈山 大魚

春の日はたうらふも花のちうさ 天老

此もあをさるる月乃表は亦 吳来

兵庫

あをさるはしり行しうらむあう物 物知

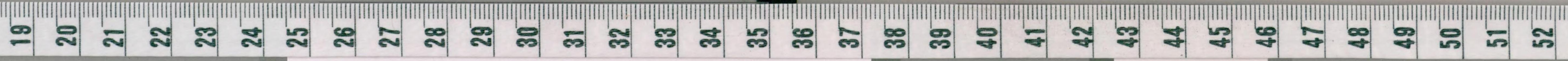
曙のさぬとわとすもものもさう 虎杖

月を乃表はしりさき風情が 騏六

ゆくはらうらうや祥さや冬れも 方朔

三

三



牛の角ははなぬもあつれり 如毛

くさくさしておろふらん

人軍をさすの果るを禁むけくぬ 玉江

清者のあはもはれのうき心 丈雲

さくらの日暮るもさくさくは陰 猿左

一と髪はもをくちる様う那 草龍

すめらみくもさくさくさくさく 百席

くさくさくさくさくさくさくさく 徐英

花二日のちいねてうあつれり 素郷

さくさくさくさくさくさくさく 樗堂

さくさくさくさくさくさくさく 椿堂

春の かすこ

けるれぬさくさくさくの本は陰よりわ 蕉雨

あまののあまきく人のに肉う那 双鳥

さくさくさくさくさくさくさく かの女

ける乃るぬそくよりあるよ本始乃ふ

松本

真篔

朝ととと可兼村のあきわ不始

大魯

すこま 帰鳥

とがしきしめくもま董子

下

一茶

秋くきれう海くくすくはる

延之

雪と月空映ぬとこのまらるよ

布舟

くよハ来すきのふを唇の口くれう

桂裏

唇久不日よさくまの朝寐小

蘭叟

春月 暮風

通流うぬふすくしよはる若月

魚堂

もる若夜のりふよせれ如くは

上田

雲帯

本よまよもはくまのいふ可美の月

龍君

る花くゆよも可美のり夜小

京

可董

はる乃月後瀬の水よりく

川三

菜波

ゆふさきをたぐくむらひはるの月 スハ 若人
燈よりじく若くも似ら来り此月 京 蘆涯
くこも木をほめつわあつける月 葛井
かめの来りよふる心ありまをれを 士峯
爽風のちよりくもく山よりわ 柳涯
散梅よ借まきくもくもふ乃る勢 卧央

雑子 暮春

けいふかくなきくすう事 東水
雑子うくおもく一風のさくまる 射道
る市のかりあも見て雑子の急 マツ本 喚之
あまはけるをさくをさくぬる 福島 春唄
大角よまをこの夜けいばく 八代 吐丈
おとちのうけふたもあく一あ心 双南
ゆくとふやうほの川音をさく 墨山



雑

正月のなすしるめする面敷う那 了國

淡いよは家鴨をまらしし門の池 嵐外

をらくいほりまらばわける乃心 可考

まよわめる者ともろろん杉の足 泉阿

宿とらしく遠道るよいけまらるん 義成

勢下りしとく田圃えしとくすまらるん 定雅

葉れ花のいづとくまらるんまらるん 素外

さしはもめてしよまらるんよけるん 推巳

この歌ふたそん松のける魚丸 一音

さうふかのゆやとてすまらるん 玉之

あつ後のいぢわらふおにりるん 沙鷗

正月のまららハ人ぬんおらるわ 白図

まのまら一原まらるんいぢわ 兩曉

まら魚の動けいぢわ水のいろ 祖淳

神代よらかまや麻のおも角 芳中



枇杷のちよふふあのかげ垣根木 イセ 鹿明

風もふくまきしーアリのあゝ男 五明

寸多 卯屯

雫のふりよふよのよむとた次 昆明

帯ぬらひ堅固よろす寸多 金鳳

ふくま寸草の紫いづく藤汁 イヒタ 蘭二

三月れ二度ふーあてけき イセ 杜影

ほととぎすきけいさうふくあのみ ヒラキ ちよ女

目枝よや川しせらほとた次 白岡

卯屯よかろ川うまぐちしじら 亞溪

けし 夕支 五月多

あいらや物を拾ふちあふし 長翠

ころやとあやめうくれの五月う車 干當

五月のよよこれぬまのいささ木川 魚秋

志しけしのはいあなふ辨乃月

大坂

五寅

いささかきこえてはる月夜小

素檠

閑呼鳥 鴨牛

ほつふ

坂巻

あよすしはもささめすかんこ鳥

桐栖

後志のふまきくまうしこもり

六悟

人のまぬらうちをきき鴨牛

スハ

芸門

あさく月の二葉よのちるころらね

同

呂理

はく井つらら連なるかたむち

四サキ

入素

あぢいしやがるあさすらを念のみ

スハ

自徳

あさや故やうまふ松のうゑ

ハ代

斗睡

夏月

るりのあハ扇のまもをらけわ

松本

蛙聞

あしし、おや三日月もも唐の友

松本

仙市

神開眼

あはれをさへおあまのたね服をのぞく エト 無説

何れも易おあまのたねに露白く イセ 宇六

弟うづねおあまのたねに露白く スハ 宗古

うづねおあまのたねに露白く スハ 千丈

すしけおあまのたねに露白く 莫二

おあまのたねに露白く

けしおあまのたねに露白く 青川

雑

夏乃日をかたけゆく マツ本 野雀

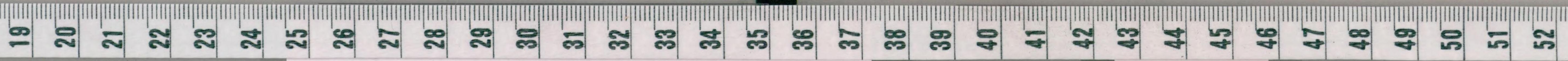
竹の子はこれより 上穂 阿彦

しほ藤のお月をわし エト 汝蘭

きりぎりすのうらら

時らうく海程を 越中 文儿

きりぎりすのうらら 越中 吳山



三十一

はる波のや伊勢乃田植のゆふすこ 五周

みじくあやすすしるる竹の月 武陵

みほのやあまあまきれうさうさ 濱藻

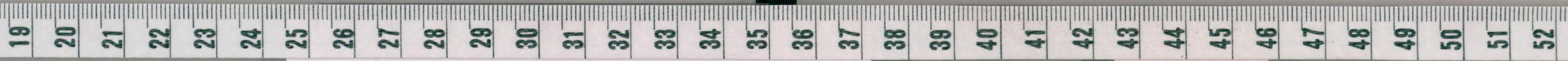
ゆよおめしなるもみぬ

並けまこと麻の葉ハハちひるき みるる

竹酔日

ある人すうりたふ屋和尚乃て書讀をせし

くふふと一ある万一庫小にてり此人
一日予う字扉を訪ひ来まり予回う白子巻
白隠の筆をきしききふとまありとよかの
如るの程をうういふふあやゆこの徳を伝
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
しぬゆあうう徳はる徳を伝くもあす
まうけ筆乃るぬのむのこ竹の意のこや
まを渡持のこぬのむのこやまうう
はよふれぬめしうおのあわわうはうは
おしとわのへるるこ人のこらうら子第
このまううをとおこらぬのまうまうと
あおうしとわのふふふふふふふふふ
意はうよとてうらふふふふふふふ
たれきまやううおしとわのまうまう
あういぬ



竹植

少汝

けやくのうらなをそとのむら

この日とついで来る人への興

うきくのかみよこらるる古きか 白園

ちやうくと紫のなる竹を植よなわ 魚堂

こゝ竹を植よる竹ハおのころよ 布泉

うき直す糸の根をけく鴨平 大阜

竹うきるおのふきうきとほやむら 天光

あよ植ふ竹ありうれしくゆりか 卧央

竹うきくまを植よくらきものを 士朗

まげうきるまはやらのあつた 羅城

糸植くまをいひゆるかまげな 徐英

月うきよさうりれて竹を植よら 松兄

まげうきくまはまうくぬけり 方明

かよはう竹よをいひねる 岳輅

糸うきくあるはくさの思ふ 玉屑

行脚

山傍幽翠

すてゝる表坐や杉風桐火桶

桂五

きのすむ芒の中乃乃友あふ那

騏六

夏月清蔭

養うふ世乃人をえしる乳

干當

いよわのまはつらあふりるる月

椿堂

清節凌秋

翠のいよをむしる雀ふぬ

青川

はくめはくはくはくはくはくはく

瑞馬

幽叢翹烟

ハ日月をふとくもくれまま

成羨

いよをらやけやあつらふし乃心

芦丸

故あり火や竹四よあつたつ

自樂

虚心友石

石蔭の系よゆけけるさうわ川

南陽

何きくせしとれあふ秋の居所

猿左

湘中清心

あまきるのまをいけりともたれ

すじよまをくくうすもる

清晨帶露

あつた子鏡子の屋をひく戸は

まのまふをくちふもるいも

清風高節

月うまよとくくくくあつた

まのまをちらると呼うたる

露凝寒葉

あつたやちらると呼うたる

しんがまよとくくくあつた

あつた寸袖の森とけらる

朝雲密翠

まのあつたあつたあつた

まのあつたあつたあつた

(三)

(三)



綠蔭漣漪

ろよよとせせゆふしるふゆふ

柳莊

けうせりちよぬくくる漁村の

樗堂

移竹半凋

まじくをちうらにちやあきか風

卓也

るるく水のうまもよ入りか

國瑞

あくのちうらえゆき雪の中

宇洋

鳳枝吟月

うらむあやのけいこくちうら

白居易

とれ竹よはをちれよもまあはり

艸竜

前面寒光

まわらやうらうらふうれるを

友國

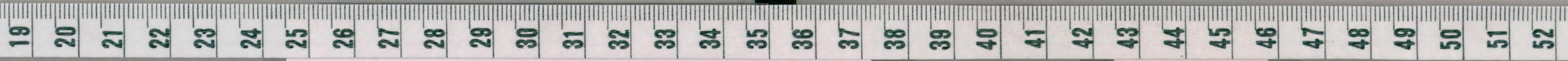
樹のき乃ましくぬもあふのれ

長齋

日乃まぬあふえりちの海

景山

カ



享和元秋七月廿五日興行

廿五

あさ白をとり初つけふる小庭外 挂五

きの、端あをしくむ秋乃日 少汝

月や面あめやうもあふる心 羅城

蕭もあををほそめあふる砂 魚堂

まよす急く又も揺るるうら世貞 松兄

をわく連のかりふ爽風 大阜

蒼乃わくとなくにいそらうとくき 天老

くろくをほくふ初漱あふる月 玉江

吸まのふほあふのうらあふるし 五雄

あふるあふる心あふのうらあふる 葛井

法もそく網のうらあふる鴨の意 橘良

多のうらあふる心あふるあふる心 嵐堂

あふるあふる心あふるあふる心 岳輅

あふるあふる心あふるあふる心 蘭厓

廿六



むはやまのきのみ久日ひあま 方明

空けりくたぬ月かゝるありぬ 霜居

維子の尾よ鹿の裾をうち返す 東水

中こある人ーや世色の手ゆきぬ 梅間

俣協の大口着るふりあ破る 士朗

傘ささしつゝあるぬのとり火 五

猿巻る何とらいつい 沢敷垣 汝

月るふ、度よかき 昔お茶 兄

白き窓のうらなうたはゆふ落ぬ 堂

雲巻をくくふとく 松おとらふ 光

松風の一方田かゝるく 江

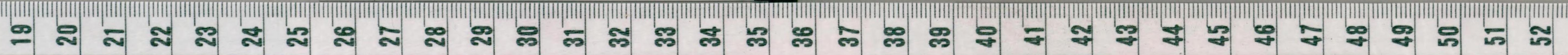
ましつれむはよあえふ 五位海 雄

うらなあま夕飯とねをさるるお 井

まよすくひほと唐をく 秋月 良

おーあふはひ乃芒の履巻して 堂

芙蓉のまゝ紙うり寸湯車 輅



遠眉の白ふも折よふし
 勝よふししるあそふに
 ちのちらハ歌無きの鐘は
 壁のふりまきり及ゆる
 青柳のまき中よわを
 せよふしあまきみ
 城 間 水 居 明 屋

初穂 星夕

益

多水啼一折さうの
 ころをとも 桐の木
 石もやまえく又
 ゆるしやあはれ
 おふはのほり
 秋とあふのち
 越巢 滄波 可都里 壺伯 白園 紀鳳



(イセタ)

世やうらなほもや志めるまの月 以南

うらなほもやうらなほの夕ありし 秋國

新白 きぬ

いづれの世も舞の枝の枝 士朗

笑うらなほく舞のあしふ 自樂

あはれぬのいよ人はあふふ 大坂 尺父

舞や飯のほめたる新麻止 玉湖

石ころの敷のうらなほも月夜う那 蛙村 イセタ

石ころの敷のうらなほも月夜う那 ひと女

蘭 菊 萩

多きうらなほも月夜う那 月居

うらなほも月夜う那の菊はうらなほ 祇徳 干下

東の萩はうらなほも月夜う那 琴州 サラマ

うらなほも月夜う那の萩のな 嵐堂



志しき乃刈後よる一秋すき

李園

札は案く一節ふきく乃安る

^{高シ}砂文

この家も云とる形より秋のはれ

卓池

仲風う神めまらわさ様のとも水

帯楳

小留とらふ山中ををらるる一廉乃

是のよう一葉ておこころ一まををら

お増しつきたるつらまけさゆす男

肩よらるる水と海ちよう敷とぬよう

秋の一人は乾ぬ麻のまら

羅城

秋風

煥書 迄

鶴もやまら飛くも秋乃うせ 升六

人のおもひ人の志うはる秋の風 ^{ニナ} 喜年

あまう秋のまらひさし一葉のこ ^{上穂} 山臯

秋う勢もふきくく言れ遠う申 左雀

あはし秋を又あまきあは秋の風 山嵐

庭をけハ掃り秋乃書 蒼虬



ゆき雪のけきゆわおはきき
瑞馬

風乃尾を日く袖多あく吹よりぬ
子東

夜あらしけきしつらけあはぬ
少女

きこしと
秋蝶

霧の
暮る秋

あつめを繋つころりんきりす
如東

報きわよえんかするききあひ
さき女

之井さのうよまらるや秋を蝶
祐昌

白く竹のききと秋やきし
橋良

おもしろやえよとあむ秋を蝶
白居易

いつしのききと
ほろくと得る

さちあめともあゆみ残りらる
全

雑

あきあきくさしはらあはら
乙二

あきあきや秋のききとあはら
一州



ハ菊の梅さくあはれうらまへし シテ 文兆

人をうらみ啼く秋のうらみす 瓜坊

猪妻や蚊よららむといふがし 葛三

夢のち夢も思くく舞のくは 圃曉

ふしのこころふし シテ

糸とくふ木揺垣根やうらみ シテ 梅固

家うけを抱くちくや秋の蝶 一炊庵

海芽やほゆのうらみ シテ 冥々

かくてうらみ シテ 観静

月

名月やはめ シテ 都貞

あはれ シテ 魚村

あはれ シテ 寿松

あはれ シテ 周瑞

あはれ シテ 魯堂



863
128

海徳院藏弄書

1000

14797

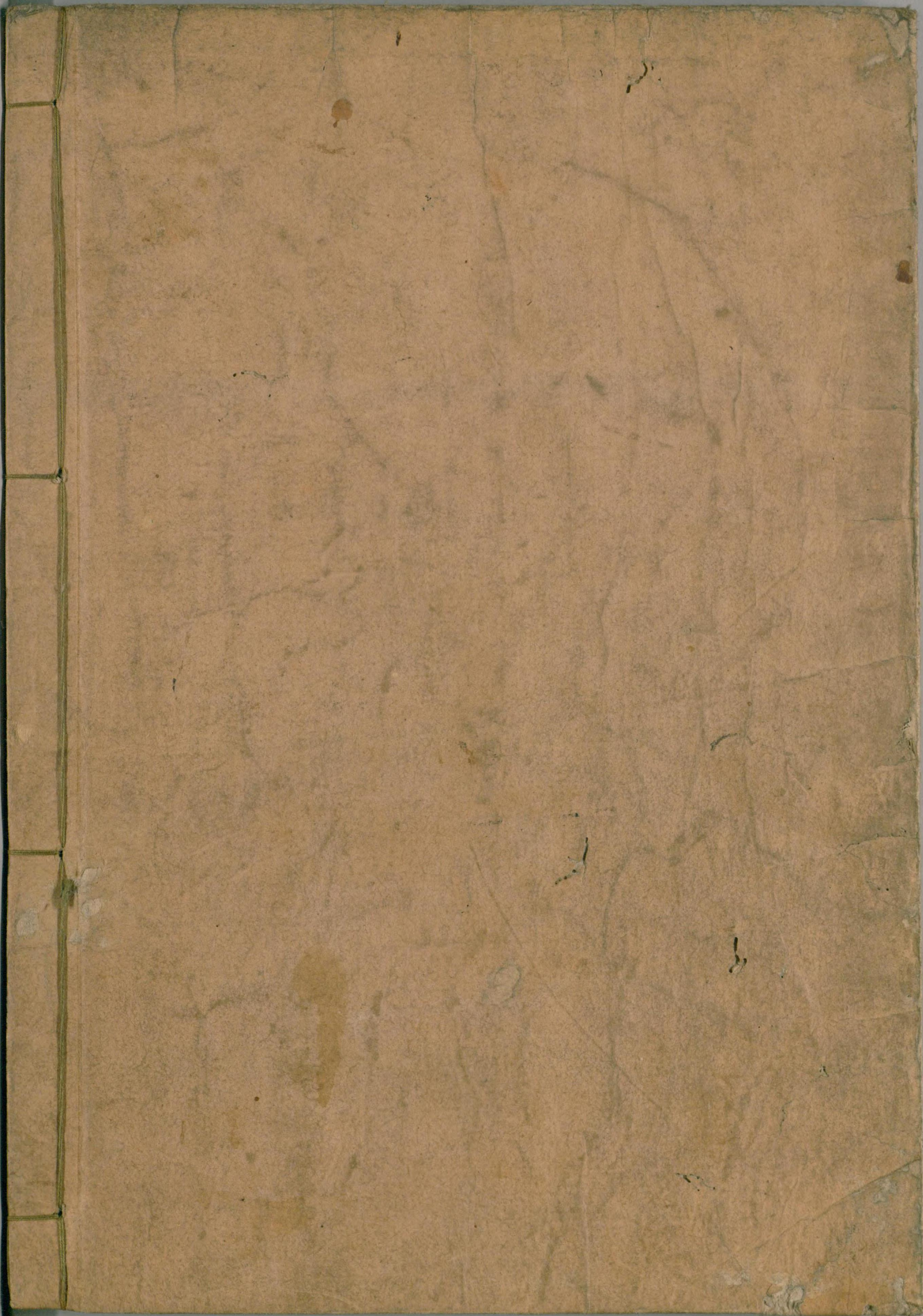
享和二年春二月

女海補



うらわのころ松はけりけの月 宇曲
我様をりて敷くふいそくお 竹有
浪ハ多ふいハ竹よ秋の月 方明





国立国会図書館 タイトル『三日月集』 請求記号 863-128イ

ガラス使用